

だっこするよ

2023年6月



社会福祉法人茂原高師保育園
園長 奥戸 昌子

レジリエンス(困難を乗り越える力)を育むとき

青葉の季節、樺の大樹たちが、葉を茂らせ木陰を作り、子どもたちを見守っているようです。そして、街中の紫陽花達が一斉に咲き誇り始めました。梅雨入りももうすぐですね。

先月の親子ピクニック、そして、0、1歳組の懇談会には、多数の保護者の皆様と交流できて、とても嬉しいひと時でした。なにより子どもたちの笑顔が最高でした。「親子の交流の場になった。」「友達と遊ぶ姿や普段の様子を見ることができた」など感想をいただき、今後も親子ピクニックを続けていきたいと思いました。4月に入ってから年間行事をお伝えしたことで、お仕事の都合など大変ご迷惑をお掛けしました。ご協力有難うございました。

入園、進級して2か月、少しずつ落ち着いてきました。どの子にとっても昼間のおうちになってきました。保育園は、人間と人間の関わり合い、子どもも保護者も共に刺激し合って育つ素晴らしい場です。0歳児からすでに自分を主張して欲求をぶつけてくれます。異年齢保育では、誰と遊びたいか、何をして遊ぶのか、どんだんさん(5歳)達にくっついて混じって遊ぶ姿、一人で集中して遊ぶ姿、遊びを選択して過ごしています。どんだんさんに刺激を受けて難しい遊びを選んでしまい、上手く出来なくて悪戦苦闘することもあります。そして、生活場面ではそれぞれに役割分担をしながら、それぞれの力を発揮して助け合う姿や安心してじゃれ合う姿が見られています。大きな家族です。

異年齢での協同的な活動を通して、社会の多様性を受け入れていく感性、土壌がゆっくりと育っていると感じます。トラブルをどう解決するか、子ども達同士で話し合う姿も生まれ、フラットな関係で互いに意見を言う姿もあります。年齢で見るとはではなく、その子らしさを受け止めて「〇〇ちゃん」と呼び掛けています。「全員一緒」に合わせようとしてきた保育者側も集団より個の存在と向き合うことが出来て、よりその子の発達段階に添った対応が出来ています。より子ども達が主体的に自発的に遊びや生活が出来るように、子どもたちの「やりたい!」を引き出していきたいと思っています。

子どもは宝です。祖母の立場になると本当にそう思います。未来であり希望です。親になると我が子の悲しいことは自分のこと以上に辛いですし、出来れば困難のない道を歩かせたいです。でも、困難の無い道とは幸せなのでしょうか。この子達が社会に出ていく20年後、AIとの共生が進み予測できない時代になっています。どんな時代でもストレスフリーの社会はありません。友達とのトラブルや失敗から乗り越えていく力=レジリエンスを育んでいきましょう。風邪をひくと生体防衛反応で発熱するのと同じです。発熱はしんどいですがそのウイルスの免疫が体内で作られて強くなっていきます。レジリエンスも免疫と同じです。

子ども時代は全て生きる為の練習時間だと思います。今、ここで沢山失敗をして、試行錯誤しながら、様々な感情を味わい、生命の軸を太らせて欲しいものです。その軸は、自尊感情や「僕はやればできるんだ」という有能感に育っていくでしょう。異年齢での関わりは、レジリエンスの土台を積む最高の場です。園生活、楽しいことも悔しいことも全部心の栄養!! そう思って大人は目を向けて耳を傾けて「どんなときも大丈夫!! 愛しているよ～」と見守っていきましょう。子どもまんなか社会を国も進めています。子どもも大人もウェルビーイングを目指しましょう。

星美学園短期大学 藤原先生をお招きして、泥絵の具作りを学びます。どんだんさん(5歳)たちと泥を濾して、細かくして、洗濯のりを混ぜて絵の具を作ります。日本画古来の絵の具作り、とても面白そうです。近隣の中学校2校からも職場体験で遊びに来てくれます。子ども達は、人間が大好き、様々な人々と接して学び、楽しんで欲しいです。写真は、親子ピクニック お弁当最高!! つきのおうちの皆さんです。